

本書の掲載内容に下記の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともにお詫び申し上げます。初版時からの訂正を載せております。お手持ちの本では修正されている可能性もございます。

頁	箇所	誤	正
32	表 2 ⑥	・・・同一品質は 2 基以下	・・・同一品質は 2 基 以上不可
66	表 2 (注)	1 / 1 0 なら右以外の組み合わせ	1 / 1 0 以下 なら×の組み合わせ
71	表 「危」の標識 地の色	黄	黒
72	2 の③	「手動(又は自動)サイレン」	削除
81	問題 14 解説 最下行	赤リン、アセトン、二硫化炭素の 3 つ	赤リン、 三硫化リン 、アセトン、二硫化炭素の 4 つ
82	解答 問題 14	(3)	(4)
90	問題 25 解説 下から 3 行目	上記の 2 に該当するので	上記の 3 に該当するので
	問題 25 解説 最下行	(5)は 3 の	(5)は 4 の
91	問題 26 解説 1 行目	(4)は 5 に	(4)は 6 に
	問題 26 解説 6 行目	前問の解説の 4.より	前問の解説の 5. より
111	問題 52 解説	5 年を超えないものは	15 年を超えないものは
134	問題 88 解説 2 行目	第 4、第 5 類なので	第 4 類なので
	問題 88 解説 最下行	「火気厳禁」と「衝撃注意」	「火気厳禁、衝撃注意」
141	問題 97 解説	このうち…なります。	※削除します
142	問題 97 解答	(1)	(2)
196	表「酸と塩基の強弱による分類」	※「弱塩基」欄の次のものを削除します	炭酸ナトリウム (Na ₂ CO ₃)
203	側注 還元剤	相手から電子を受け取る	相手に 電子を与える
231	問題 30 問題文中	Log ₂ =0.03	Log ₂ = 0.3
276	問題 3 表中	D 冷却効果、窒息効果	D 窒息効果
299	表 ④	亜塩素酸カリウム (NaClO ₂) 亜塩素酸ナトリウム	亜塩素酸カリウム 亜塩素酸ナトリウム (NaClO₂)
301	中央	初期消火には・・・炭酸水素塩類・・・	初期消火には・・・ リン酸塩類 ・・・
321	問題 22 選択肢 C	・・・分解して有毒ガスを発生する。	・・・ 融解せずに分解を始める。
329	表 1 消火	③硫黄と④鉄粉の間のライン無い ④鉄粉と⑤金属粉の間にライン有る	③硫黄と④鉄粉の間の ラインを入れる ④鉄粉と⑤金属粉の間の ライン削除
332	表 7 性状欄	4. 水や酸…	4. 酸…
357	表 1 ⑨ 形状欄	暗褐	暗赤
363	表 9 性状欄 2.	可燃性で有毒の	可燃性の
393	表 7	引火点⇒20℃	引火点⇒ -20℃
394	表 8 性状欄	※「7. 電気～しない)」を削除して 8. を 7. にする	
400	表 14 アニリン 性	水溶液は弱酸性	水溶液は弱 塩基 性

	状 2		
425	問題 5 解説	E ~となります。	E エチルメチルケトンパーオキシドのように分解しやすいものは、蓄熱しないよう、通気性のよい容器に貯蔵する必要があるので、誤りです。 従って、正しいのは、B、Cの2つとなります。
426	解答 問題 5	(3)	(2)
428	表 1 ②硝酸エステル類 水溶性 1 行目	×	△
	表 1 ②硝酸エステル類 水溶性 2 行目	△	×
456	問題 5 解説	<p>※次のものに差し替えます</p> <p>第 6 類の危険物の火災には、一般に C の強化液消火剤等の水系の消火剤や D の膨張真珠岩等を含む乾燥砂などを用いますが、C の強化液消火剤は、フッ化臭素、フッ化ヨウ素が水系が厳禁なので、「すべて」という条件に当てはまらず、不適です。また、「ハロゲン化物消火剤 (⇒A)」「二酸化炭素消火剤 (⇒E)」「粉末消火剤 (炭酸水素塩類を含むもの)」も第 6 類危険物には適応しないので、結局、第 6 類のすべての危険物の火災に対し有効な消火方法は、B, D の 2 つということになります。</p>	
	問題 5 解答	(3)	(2)
462	表中 最下行	・粉末 (炭化水素塩類)	・粉末 (炭酸水素塩類)
499	問題 20 解答	(5)	(4)
	問題 20 解説	(5)の酢酸	(4)の酢酸

以上